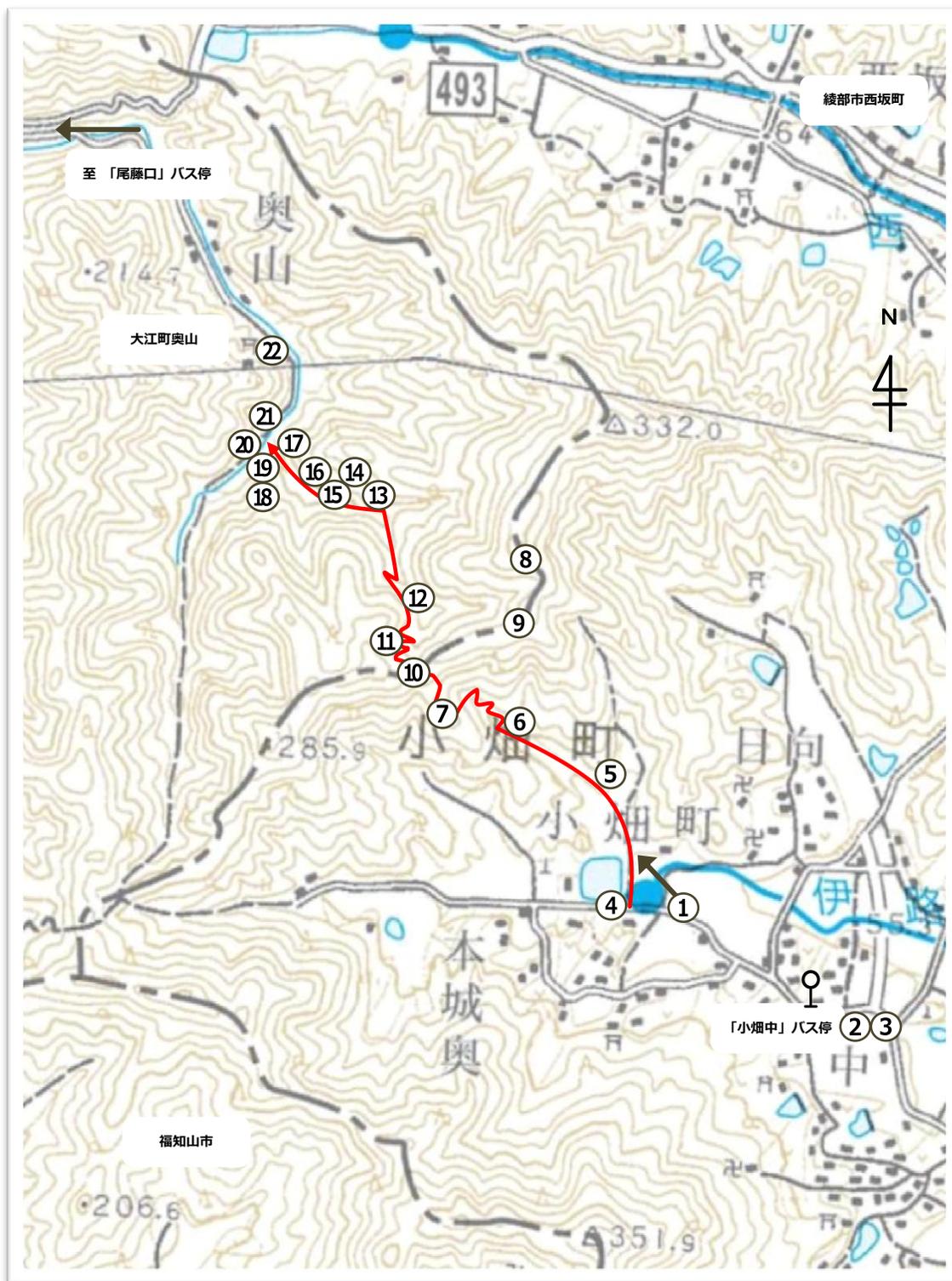


○宗峠調査報告

1 位置図



<交通アクセス>

- ・綾部方面から 小畑側は、あやバス「小畑中」バス停から小畑大池分岐まで0.5km、そこから峠まで1.5km（約50分）
- ・大江方面から 福知山市営バス「尾藤口」バス停から徒歩で尾藤、奥山を経てとりつきまで5.0km、そこから峠まで1.0km（約50分）

2 調査日 平成 23 年 12 月 13 日

3 調査箇所 綾部市小畑町～宗峠～福知山市大江町奥山（約 2 km）

4 調査結果概要

小畑側は尾根道の部分が多く、通行可能である。若干、生え込みや倒木があるので整備すれば歩きやすくなる。一方で、大江町の側はほとんどが谷道で、浸食や植林により古道は判別しがたくなっている箇所が多い。道中、トイレなし。駐車場なし。道中、獣には出会わなかったが鹿の糞あり。小畑側と大江側両方に道標が残っている。

小畑の側の古道を活用することは容易である。

<参考> 峠の歴史～ 宗峠をめぐる史料と史実、及び古道と道標 ～

- ・この峠は綾部市小畑地区から大江町河守地区に出る一番の近道である。河守地区は、由良川が流れ、大雨の度に水害に遭い、水稻が壊滅状態となった。小畑地区は肥沃な土地柄で見た目より多くの米が収穫され、余剰米を夜、人目を忍んで牛の背中に俵を載せて売りに行ったと古老から聞いている。「丹波良い所、米所、嫁にやりたや、婿ほしや」の言い伝えがある。（小畑町・村上正氏による）
- ・背後の尾根には、「つつじの咲く道」や「宮ヶ嶽の秋葉神社」（峠から北東 1.3km）があり、それらをめぐる遊歩道の計画が地元で議論されている。宗峠から西 0.7km には、現在小畑町内にある天王寺が山の上にあった頃の古跡（山上の廃寺跡）「天王寺ヶ尾」がある。また宗峠から南西 1.5km には、すでに古道整備され毎年、峠越えイベントでにぎわう「金谷峠」がある。

【古道をめぐる思い出の情報交換】

日時：平成 24 年 2 月 18 日（土）19 時 30 分～21 時 於：本城奥公会堂（綾部市小畑町）

- ・宗峠は小畑から尾藤・河守への街道であった。大江町は水害で稲も被害に遭うことが多く、近くの小畑から米を運んだと聞いている。
- ・福知山市佐賀地区との親戚関係は多いが、大江町尾藤や広畑との関係もかなり多い。
- ・昔から峠の大江町側の森林を、小畑町の方が借り管理してきた。
- ・昔はマツタケが多く生えていたところだが、今はほとんど出ない。マツの苗木を植えて再生に取り組んでいる。
- ・宗峠近隣は日当たりも良くツツジが多くきれいだ。秋葉神社への道は、小畑町日向からは急勾配で宗峠起点付近からの方が緩いので楽に行けると思う。ツツジは例年 4 月 1 0 日から 1 5 日が見頃だ。
- ・先般の峠フォーラムで郷土史家の方が、蓼原・尾藤に港があり、魚や塩を荷揚げして小畑方面に売りに来られたと話しておられた。
- ・ふるさとを山の上から見る機会が少なくなった。
- ・もっと多くの人々が峠を知って頂きたい。

5 現地調査

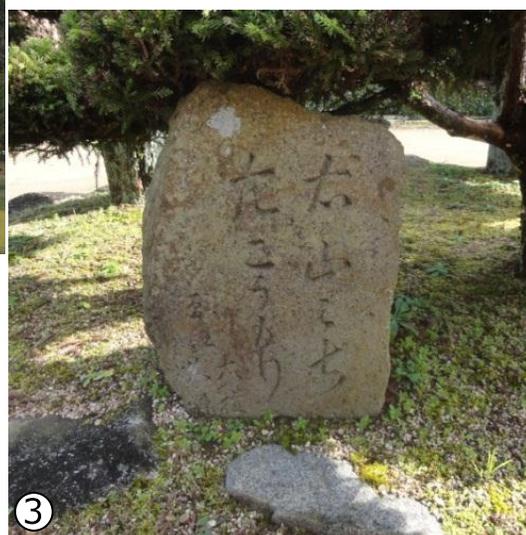
(1) 小畑町～とりつき



①宗峠（写真中央左の鞍部）を小畑町から撮影。



②小畑町の公会堂（農業構造改善センター）前に移設されている道標「こうもり むろたに」。小畑大池東南角にあったと推察される。「こうもり」が、宗峠を越え奥山地区を経て大江町河守に達する道筋を示している。（2009年撮影）



③「右 山ミチ 左 こうもり」小畑町の公会堂（農業構造改善センター）前に移設されている。本来は、小畑大池の東北側にあったものである。「左 こうもり」が、宗峠を越え奥山地区を経て大江町河守に達する道筋を示している。



④小畑大池東南角、市道分岐。あやバス「小畑町」バス停から小畑大池分岐まで0.5km、そこから峠まで1.5km。ここから北（右）に入る。宮ヶ嶽の秋葉神社への参道を東に分岐させ、やや進むと稲荷神社もある。

⑤とりつきから約0.2km。上記「右 山ミチ 左 こうもり」の道標（③）はこの位置にあったが、ほ場整備時に小畑公会堂に移転保存されている。



(2) 小畑側谷奥～峠の鞍部



⑥小畑側谷奥。谷奥までは植林地をゆく。一部、倒木もあるが通行可能である。



⑦小畑側谷奥中腹。中腹の峠道は植林地や広葉樹林内をゆく。少し急傾斜であるが古道はよく残っている。一部崩落や、倒木がある。



⑧⑨宗峠近く、小畑ののびやかな尾根。
(宗峠峠道近くの尾根) (2009年5月撮影)



ヤマツツジ
(2009年5月撮影)



⑩峠の鞍部。なだらかで古道も状態よく保存されている。